

成人おめでとう

一月十五日、町民会館で成人祝賀会が行われました。

今年成人を迎えた方は一三八名です。

齊藤町長は成人者にお祝いのことばを述べるとともに「現実には常に順境と逆境との裏合わせです。苦しく又厳しい局面に立たされた時はこれを試練と思い、決して厳しさに背を向けることなく敢然として挑戦する気概が何よりも肝要であります。これから更に自己を磨き真の社会人となられるよう希望します。」とあいさつしました。



成人者一人ひとりにお祝いのことばをかける町長



台 大木 恭子

成人としての決意

二十歳というのは、人生の中で一つの大きな節目ともいわれています。ここで改めて自己を振り返り、二十歳としての決意を新にしなければいけないことを痛感しています。

現在私は、看護婦を目指し勉強に、そして病院での実習に励んでいます。患者さんと接するようになって、本当に病をもった患者さんというのは、まわりの人の優しさを求めているんだなあと思いました。どうにか良くなつてほしい、直つてほしいという気持ちで接することによって、その気持が患者さんに通じ、そこに良い信頼関係が生まれてくると思います。私は人に対する優しさだけは常に持っていたいと思います。そして、たくさんの人と接していく中で一歩一

歩自分を成長させていけたらいいなあと思っています。

医療者として、人の生命をあくまで守る立場にあるので、より重い責任を常に持つていなければいけないと思っています。

何事にも一方向から物を見ず、いろいろな角度からその場に合った見方が出来るよう自分なりに努力していきたいと思っています。



宝米 小川 絹子

二十歳をむかえて

高校卒業後、不安と期待が入り混じった社会人としての生活は本当にあつという間に時が過ぎてしまうようだ。環境は変わったけれど、自分自身には変化がないような……。でも以前よりも精神的に強くなったし、自分の行動に責任がもてるようになったと思う。少しずつ「大人」に近づいているのかも？

第一の成人式とするならば、自身に自信がもてるよう努力していきたい。そして、二十歳になった今日までずっと見守り続けてくれた家族や周囲の方々に感謝したい。

そして、良いところを見習い少しずつ成長していきたいと思う。



台 山崎 基弘

二十歳になって

思うこと

考えてみますと、成人式を迎えたということは、ようやくひとりの大人としての関門をくぐつたと言ふに過ぎず、人生経験に乏しい私たちはまだまだ人間として未熟であることを痛感します。けれども私たちは若い青年ですから、体力もあり正義を愛する心と豊かな感受性、旺盛な知識欲及び向上心を持つております。

今日の成人式を境に、この青年としての能力をフルに活用して成人として自己の人格完成に努力するとともに、強い意志と責任感を持った立派な人間にな

ることを目指して精進努力して行こうと思います。



木戸 畔蒜千恵子

成人としての決意

恵まれすぎた環境に育ち、多様化している現代に生きる若者は、多くが目的を持たず無気力であると言われます。自分もそうした世代です。私は中学はバレー部、高校は陸上部に所属し現在はテニスをやっております。これらのスポーツを通して数多く学びました。その体験を生かして社会の悪い風潮に流されないよう自己を形成すべきだと思えます。

同じ年でも既に社会人として働いている人もおりますので、あせりはありませんが、今はやりたい事がたくさんあり、又、それができる時期だと思っております。将来の事も暗中模索といった段階ですので、これから卒業までの間じっくり自分を見つめ、考え、そして世間の荒波にもまれる準備期間としたいと思えます。

私はこれまで一人で生きてき